

がん対策の「六位一体」と北海道医師会への期待

北海道新聞社
編集局 くらし報道部編集委員

岩本 進



7月22日、札幌市内で「北海道がんサミット2018」が開かれました。がん患者・家族、医療者、行政担当者、議員、教育関係者、企業関係者らさまざまな立場の総勢約190人が、北海道のがん対策の課題や解決策、対策を進めるにはそれぞれの立場でいま何をするか、どの立場に何をしてほしいか、などについて話し合いました。北海道医師会からも、長瀬清会長や伊藤利道常任理事、事務局員らが参加し、準備から運営、そして議論に加わりました。

北海道がんサミットは今年で3回目。主催は2016年4月に発足した「北海道がん対策『六位一体』協議会」です。北海道のがん死亡率が他の都府県と比べて極めて高いことから、がんに関わる道内のさまざまな団体や機関が連携協力し、道民一丸となった“オール北海道”の体制で対策を推し進め、道民の命をがんから守ることを目指す連合体です。現在、加盟しているのは北海道医師会や北海道新聞社など14者。会長は北海道医師会の長瀬会長です。

ところで、「六位一体」とは何でしょうか。これは「ろくみいったい」と読ませる造語です。がんの対策は、例えば、行政に任せきりにしても、医療者だけが旗を振っても、患者だけが「こうしてほしい」と声を上げて、1者だけではなかなか前に進めることはできません。当事者であるがんの患者・家族を中心に、診断や治療などに当たる専門職の医療者、施策を実行する行政担当者、法律・条例や予算を決める議員、さまざまな形で患者や対策を支える企業関係者、それを報じるメディアの6者が一致協力して取り組めば、社会を変える大きな力になり得えます。これが、六位一体の“こころ”です＝右のイメージ図参照、北海道新聞8月1日掲載＝。

ただ、六位一体は何も6者に限ることはありません。子どもにがんを教える「がん教育」の重要性が叫ばれています。教員をはじめ教育関係者にも加わってほしい。また、がんや公衆衛生学、疫学などの研究者にも加わってほしいと思います。七位でも八位でもいいのです。仲間は多いに越したことはありません。北海道でがんに関わるあらゆる立場の人が一緒に、知恵を出し合い、取り組むことが大切ではないでしょうか。

「なぜ、北海道には六位一体の連合体があるので

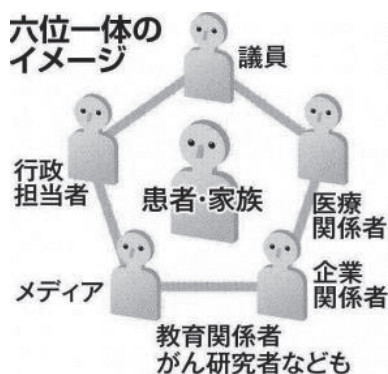
すか」「なぜ、そこに北海道医師会が参画しているのですか」。年に数回、全国からがん患者が集まり、患者本位のがん医療や対策を考える勉強会に参加しています。そこで道外の患者や関係者から必ず聞かれるのが、これらの問いです。六位一体もそうですが、都道府県レベルの医師会が、がん患者らと一緒に、がんの対策に取り組んでいる姿が新鮮だと目に映るのかもしれませんが、裏を返せば、それだけ、がん患者たちの医師会への期待が大きいということではないでしょうか。

実は、六位一体でがん対策に取り組む道内の連合体は、全道の協議会のほかに、室蘭地域に「室蘭がんフォーラム」（16年2月発足）、道南には「函館・道南がん対策応援フォーラム」（16年11月発足）があります。いずれも地域に根差した活動を展開し、室蘭市医師会や函館市医師会、渡島医師会など地域の医師会が中心的な役割を果たしています。これら三つの連合体による六位一体での活動の目に見える成果はまだこれからですが、こうした取り組みが道内各地に広がってほしいと期待しています。

六位一体という考え方は、何もがん対策だけに限らず、さまざまな医療の分野の課題解決に有効な方策ではないでしょうか。確かに、国民の2人に1人が一生のうちにかかるがんは、大きな問題です。だがほかにも解決しなければならない多くの課題に、私たちは直面しています。地域の関係者が立場を超え、力を合わせて協働する仕組みを、多方面でも活用してほしいと願います。

「道民の健康と命を守る」という大きな命題は、北の大地で働く医師が集まる北海道医師会、北海道に根差した報道機関の北海道新聞社、そして、道内に暮らす誰もの共通の願いにほかなりません。

最後になりましたが、機関誌「北海道医報」は取材の参考にと、毎月拝読しています。1200号の節目にお祝い申し上げるとともに、貴会のますますの発展とさらなる北海道の医療と道民への貢献、今後もがんをはじめとするさまざまな課題解決の中心となつてともに活動されることを、祈念いたします。



プロフィール 1991年北海道新聞社入社。函館報道部、社会部、生活部、旭川報道部編集委員などを経て2013年から現職。長年、医療やいのちの問題などを取材。国立がん研究センターがん情報サービス専門家パネル委員、道内4大学のがんプロフェッショナル養成プラン評価委員会委員、道移植医療推進財団総務企画委員会委員、道骨髄バンク推進協会運営委員なども務める。